ある意味
忘れられない四国

小樽市医師会
消化器科・内科高橋医院　高橋（たかはし）　達（とおる）

大学時代、同期に愛媛県の大洲市出身の友人がいて大学２年の夏休みを利用してご実家にお邪魔し、二人で四国旅行をしました。40年以上前の話です。この時は友人の家にあったかなり年季の入った三菱ギャランに初心者マークを付けて、二人で交代で運転して四国のあちこちを巡りました。当時四国の道はどこも狭くて、しかも観光地に行くにはほとんど例外なく片側は切り立った壁、片側は谷底みたいな道ばかりで本当に大変だった記憶があります。二人とも初心者マークでよくあんな道を運転したものだと今更ながらに思います。今も旅行に付き合ってくれたこの同期の友人に感謝しています。

後年、四国に行ったことがないと言う妻と二人でレンタカーを使って四国を旅しました。私にとってその時以来の四国です。さすがに40年もたっていましたので道路は整備され高速道路も通っていて、以前来た時と大違いで快適に運転できました。でも実はとんでもない落とし穴がそのあとに待っていたのです。この時の旅行は香川県からスタートしました。香川の次は徳島県の祖谷渓に移動することになりカーナビに従って祖谷に向かいました。カーナビって便利ですが、時々すごい道に案内されてしまうことがありますよね。表示されたのは高松から高速に乗り途中から国道319号線を通って祖谷に抜けるルートでしたが、後から調べたらこの国道319号線というのは四国でも有名な未整備の国道だったのです。ネットには「酷道」と記載されていました。北海道に住んでいるとたまに非舗装のところはあっても国道と言えば整備されているのが普通です。少なくともある程度の道幅は確保されていると思います。でもここは全く違いました。40年前の四国旅行でも見たことのない曲がりくねったものすごい細道で、対向車が来たら絶対すれ違えないと思われるところばかり。本当に車１台分くらいの道が続いているのです。カーブの向こうは全く見えず右側は切り立った壁、左側は場所によってはガードレールさえない谷。こんな国道が存在するんだと本当に驚きました。落ちたら命はないと思うような場所にガードレールもないのです。助手席に乗っていた妻からは谷底が見えたようで、カーブのたびに硬直し震え上がっていました。おそらくガードレールを付けるスペースもないのだと思います。対向車とすれ違うときはなるべく広めの場所でぎりぎりで通過する感じです。このような道が30分以上続いたでしょうか。センターラインのある道に出たときは心から安堵しました。

そんなこともありましたが事故もなく四国を満喫し、松山空港前でレンタカーも返却。予定通り松山発羽田行きの飛行機に乗り込みましたが、ここでまさかの２度目の落とし穴が待っていました。乗り込んでしばらくたってもなぜか飛行機が一向に動き出さないのです。おかしいなと思っていたら機長からアナウンスが入り、ドアの不具合で離陸できない。部品は羽田にあって届くのは早くて５時間後とのことでした。こんなことってあるのですね。結局昼食用の食事券を渡されて飛行機を降ろされ、受付カウンターで代替えの便の手配をしてもらいました。しかし連休でその日に北海道まで帰ることのできる便は全て満席。結局６時間ほど遅れた便に乗って羽田まで行き、東京にもう１泊して１日遅れで帰宅することになってしまいました。当然外来にも穴をあけることになりがっくりでした。

でも後から思えばこのようなトラブルも忘れられない旅の思い出です。むしろこの時の四国旅行のことを思い出そうとすると、あの２連発の落とし穴が真っ先に思い浮かびます。その時は大変でしたが、今では本当に忘れられない思い出になりました。でもあの国道（酷道）だけはもう２度と行きたくないと心から思います。もしこれから四国を旅行することがあったら、たとえカーナビが国道319号線を通るように選択したとしても絶対にこのルートは通らないことをお勧めします。スリルと恐怖感が半端ないですから。